

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	熊本支部	(2)記載者氏名:	加藤 功一	会員番号:	11771	事務局整理記入欄	熊本-16
分水嶺区分	K142不土野峠～K146津野越		(3)山行日:	2005年	1月	22日	(4)天候:曇り

(5)参加者氏名および会員番号

加藤 功一	11771			本田 誠也	5421	能田 直子	12101	
石井 文雄	13852			廣永 峻一	10080	村尾 恵子	協力者	
安場 俊郎	13889			加藤 明	13854			
村尾 保義	協力者			加藤 百合子	会友			
計				4名				
				計				6名

サポート要員氏名および会員番号

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	K142不土野峠～K143小崎峠～K144小崎山～K145御岳～K146津野峠												
アプローチ:	熊本～九州自動車道～人吉インター～水上村役場～平畑												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11) の特記事項
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	平畑	古屋敷	131	3	22.2	32	24	13.5	652		9:25		10
分水嶺到達点K142	不土野峠	々	131	3	9.7	32	24	29.8	1,084	11:10	11:25	A-1	8
K143	小崎峠	々	131	4	1.5	32	24	25.7	1,241	12:50	12:55	A-1	10
K144	小崎山(小崎峠)	々	131	4	5.1	32	24	27.6	1,273	12:59	13:05	B-2	7、9
K1445	川の口越(村道)	々	131	4	10.0	32	24	2.2	1,183	13:28	13:32	B-2	8、10
K145	御岳	々	131	4	23.6	32	23	29.2	1,326	14:28	14:35	B-2	7、9
分水嶺離別点K146	津野越	古屋敷	131	4	8.6	32	23	10.6	1,240	15:20	15:30	B-2	8、9、10、11
歩行終了点	小白水	々								17:50		B-3	
総歩行時間(休憩時間を除く):												8時間00分	

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点 コードを記入してく	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
K144	小崎峠	3	S	良好	
K145	川ノ口	3	S	良好	

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

K142: 県境標(熊本県・宮崎県)、地形図案内板あり
K144(川の口越): 村道 川の口上線の道路標識あり
K146: 稜線(K143～K146)には赤テープの標識あり

(9)水および植生に関連した特記事項

K144: ヒノキ植林の中(宮崎県馬口岳行造林)の立札あり
K145: 頂上付近は雑木林、周りは杉の植林
K146: 西側(熊本県側)はヒノキの植林

(10)その他の特記事項

平畑: 道路欠陥による交通止のため、平畑から不土野峠まで全員で歩いた(約1時間40分)。昼食後、調査隊とサポート隊に分れた。
K143: 小崎峠のすぐ下まで林道が伸びている
K1445(川の口越): 「関係者は立入禁止」の立札あり(意味不明)、途中に九州電力の反射板あり
K146(津野越)からの下山: 計画では朴の木原に下る予定で、サポートも朴の木原で待機していたが、調査隊が道を誤り小白水へ下りたため、サポート隊も小白水へ行き合流した(トランシーバーでやっと連絡が取れた)

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
K142: 参加者スナップ写真(久々に参加者が10名と多かった)
K146: (津野越)から小白水への下り: 雪の積んだ沢下りで高巻きに苦労した

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

(まとめ)

今年、最初の分水嶺調査であり、参加者も10名と多かった。

場所が九州脊梁山地であり、昨年の台風の影響で道路決壊カ所が多く、また、積雪の関係で調査場所の選定に苦労した。稜線の通行が懸念されたが、切り開きも行われており、また、先年当支部で実施した「県境の山」で着けた赤テープ標識も残っており、スムーズに調査できた。

しかし、津野越から朴の木原への下りでは、道を間違い小白水へ下りてしまいサポート隊を心配させたが、運良くトランシーバーでの連絡が取れサポート隊と合流できた。



参加者のスナップ



雪の積んだ沢下り